

IV Eフローリング タイプD - [接着工法]

床張りの工法

本製品は、平滑な下地面に直接接着剤で張り込む工法による床材です。

施工前の下地点検

『SV ダイヤフロア Eフローリング タイプD』の施工に先立ち、下記項目について点検し、不備な点があれば申し入れ補正をしてから作業を進めて下さい。

- ①コンクリート系下地の表面が平滑であること
- ②コンクリート系下地の含水率(10%以下であること)
- ③コンクリート系下地の表面強度(ザラツキ、粉ふきが無いこと)
- ④床下地等の清掃有無
- ⑤下張合板が介在する場合は合板の含水率(12%以下であること)

床材の割付け

下地の割り付けを行い、張り始めの基準線を引く。張り始めの1列により乱尺にて割り付けを行って下さい。

本製品は表面材に天然木を使用しておりますので、1枚1枚全て色柄が異なります。張り込む前に必ず仮並べを行い全体の色柄バランスを取って下さい。

接着剤(F☆☆☆☆推奨)

接着剤は、エポキシ樹脂接着剤、ウレタン樹脂接着剤、またはこれ以上の耐久性を有する接着剤を使用して下さい。(接着剤の塗布量は、下地面の平滑性を考慮し、クシ目ベラで500~600g/m²が望ましい)

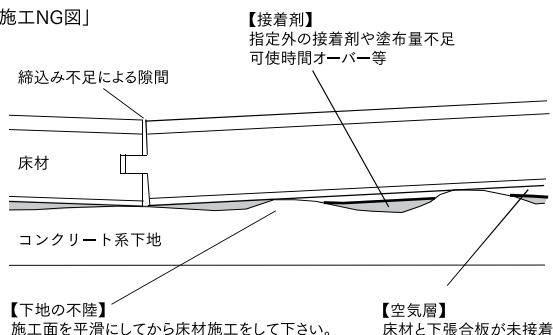
張り込み

下地面に接着剤(クシ目ベラで500~600g/m²)を塗布して下さい。一回に塗る接着剤の面積は、オーバータイムによる接着不良防止の為、接着可能時間内に張り込み出来る範囲で接着剤を塗布して下さい。

隣接するフローリングの継手は乱尺とし、不自然とならないよう通りよく並べ張り込んで下さい。

尚、図1のような施工にならないようご注意願います。

図1「施工NG図」



エキスパンション

壁、幅木、敷居、点検口等には適当な空隙を空けエキスパンションを設けて下さい。

空隙にはゴム、コーキング等を行う場合は指定によります。

張り始め、張り終いは壁面から必ず約20mm以上あけて下さい。

巾木呑み込み等の場合は現場の指示に従って下さい。

特に環境湿度の高い地域は床材の伸びを考慮して下さい。

JAS規格により、床材の平均含水率14%以下となっております。

施工地域・立地条件等の環境により、エキスパンションゴムまたは隙間を設定願います。目安として含水率の変動率「VII技術資料(P11)」を参照願います。

点検・養生

床材の張り込み作業が完了した後、床面全体を点検し、浮き等が無いことを確認すること。万が一浮き上がりが生じている箇所は重し(10kg以上)を置いて下地に完全に圧着させて下さい。

施工に使用した接着剤が完全に硬化するまで充分な養生期間を設けて下さい(24時間以上)。

完了報告

VI.共通項目完了報告(P11)をご参照下さい。

安全管理

VI.共通項目安全管理(P11)をご参照下さい。

詳しくは、日本フローリング工業会発行の「フローリング張り標準仕様書(令和2年度版)」をご参照下さい。

フローリング張り標準仕様書(令和2年度版)

第3章 フローリング張り 乾式工法(P23)

第2節 釘留め工法の直貼り工法(P11)

第4節 接着工法(P13)